



日韓合同授業研究会会報

# 第 105 号

2016年9月 11日発行

## 第 22 回交流会 潮来大会

「記憶されない歴史は繰り返される。

～関東大震災から～」を終えて

藤田

7月29日から8月1日までの四日間、潮来大会を無事終えることができた。今年も様々な出会いがあり、充実した4日間を過ごすことができた。今年のフィールドワーク及び授業報告は以下の通りである。

フィールドワーク 八千代・船橋 朝鮮人虐殺関連遺跡 成田空港「空と大地の歴史館」 佐原

### 授業報告

「子どもたちが見せた関東大震災の初めと終り」イ 慶州 初等学校

「千葉朝鮮学校での関東大震災と朝鮮人虐殺の授業報告」キム 千葉 中級学校

「ヘイトスピーチと朝鮮人虐殺を多文化生徒とともに考える」

遠藤 神奈川県立高校

### 特別報告

「政治的内戦、歴史教科書国定化」クオン 浦項 初等学校

「義務教育での道徳教科化に関する問題点」池田 中央大学

交流報告「今を未来へと繋ぐ、日韓の高校生たち～第一回日韓討論会を通して～」 高校生

一つひとつのプログラムが充実していたのは、交流会の中心である授業報告などの内容が充実していただけではなく、今日的な意味のあるものだったからであろう。

東京韓国学校の高校生たちが主体的に日本の高校生に声をかけ、テーマ別に討論をした報告は、そのスピーチも生き生きとして、日

### 目次

第 22 回交流会潮来大会を終えて	1
交流会フィールドワークより	3
交流会アンケートより	8
短信	16

韓関係が冷え切っているこの時代に希望を与えるものであった。

特別報告では、日韓両国における政府の教育への不当な介入の実態が明らかになった。一つの国で起きている出来事が、隣国でも起きてくる。韓国の国史国定教科書の流れは、韓国の教育の発展に対し、流れを逆行させるものである。両国の状況を知ることは、市民の運動を力づける。池田さんは、日本で起きた福祉施設での殺人事件を取り上げ、殺された方の名前を公表しないのは、殺人を犯した人と同じように存在そのものを否定することだと語った。今回の交流会で語られたのは、存在そのものを国家によって奪われた人々の隠された歴史と、その歴史を掘り起こし、歴史と向かい合う人々との出会いである。

この歴史に3人の教員が授業として取り組んだ。イさんは小学1年生に対しこの出来事をどのように向き合わせるか考え、「勇気」ということを考えさせた。遠藤さんは、高校に集う多文化の生徒たちと、現代の「ヘイトスピーチ」について掘り下げて考える中で、関東大震災における朝鮮人虐殺を取り上げた。資料として使われた「憎悪のピラミッド」は、朝鮮人虐殺のような課題を、幼い子どもの視点に置き換えるときに有効であると感じられた。そして、キムミョンソンさんの報告は、長い間積み重ねてきた実践であるということに重みがあった。朝鮮学校との交流を続けてきた雁部さんは、朝鮮学校の子どもの受け止め方の変化について指摘していた。

フィールドワークは「千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会」の平形さんをお願いしていたが、思いがけず大竹さんにもお話を頂けることになった。大竹さんは1930年生まれの中学校の教員で、関東大震災の朝鮮人虐殺を直接見たという先輩教員から話を聞いて、以来長年この課題に取り組んでこられた。掘り起こしてきたこの「隠された歴史」を何とか伝えようとするその情熱に心が打たれた。

関東大震災で「朝鮮人が井戸に毒を入れた。」などのデマにより、民衆が自警団をつくり多くの朝鮮人を虐殺。その朝鮮人を保護したはずの習志野騎兵隊が、数人ずつの朝鮮人を地域に「払い下げ」て殺させた。地域の人たちは朝鮮人を殺害したその歴史を背負い、ひっそりと塔婆を建てるなどを行ってきた。大竹さんや平形さんたちはそのような人々の思いと向き合い、また在日の人々や韓国の人々とつながって、事実を明らかにする活動を続けてこられた。このフィールドワークを通して、加害者とさせられた人々がどのように、加害の出来事と向かい合ってきたのかを学び、同時に二度と加害者とさせられないために何をしなければならないかを考えさせられた。

今日、災害を理由として、「緊急事態条項」「テロ等組織犯罪準備罪」（共謀罪）を取り上げようとしている姿と、関東大震災後、「治安維持法」を作っていた歴史はあまりにも酷似している。政府が情報を操作し、混乱を作り出し、思想統制へと向かう。このような歴史を繰り返さないためにも、政府による事実解明と謝罪が求められる。

今回、主題講演に代えて、映画「払い下げられた朝鮮人」（1988）および「隠された爪跡」（1983）を観た。「隠された爪跡」は、雁部さんも関わってきた荒川の遺骨を掘り起こす現場と証言、「払い下げられた朝鮮人」は今回のフィールドワークの場所が舞台となっている。DVDを借りるために呉充功監督に連絡をしたところ、呉監督は、交流会に参加しいっしょにフィールドワークに行くことができた。呉監督は「払い下げられた朝鮮人」を撮ってから28年ぶりに、関東大震災における朝鮮人虐殺を扱った3作目の映画を撮っているという。（フィールドワークの中でもカメラを回していた。）一方で、第1回交流会で雁部さんが、韓国から来た子どもと一緒に荒川で聞き書きをした授業報告をしてから21年目、本格的に関東大震災における朝鮮人虐殺をテーマに私たちは交流会を行った。関東大震災から93年たった今年、この朝鮮人虐殺を見つめなおすことの重さを改めて感じさせられた。

## 交流会 フィールドワークより

### 「関東大震災－93年前に何がおこったか、今からの問いかけ」

7月30日(土)フィールドワークは、千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会の大竹さん、平形さんのお二人に案内していただきました。

#### 八千代市 高津の観音寺の慰霊碑・慰霊の鐘「普化鐘楼」の前で

平形 自己紹介をさせていただきます。私達「千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼・調査実行委員会」を1978年に作りました。ずっと一緒にやってきているのですが、大竹さんは中学校、私は私立の高校の教師をしていました。二人とも職場を退いて長くなります。最初にここ高津観音寺と「なぎの原」をご案内いたします。

大竹と申します。簡単な自己紹介とどうしてこの運動に加わることになったかを話します。私はこの隣の市の中学校の教師でした。今から40年位も前になってしまいました。

社会科の教師でしたが、郷土史研究クラブを作りました。生徒たちと地域のことを調べ始めた時からこの問題にかかわってきました。一番大きいことは、私が教員になった時から、職場で先輩教師としていろいろ指示をいただいていた阿部こう先生が「あんたに一つ話しておきたいことがある。」とおっしゃっていました。その方は生徒たちに「自分の判断でちゃんとできるように、そのために今勉強するんだ。」という事をいつも言っていました。

その方から、生徒と一緒に、小学生の1年生か2年生の時に目撃した朝鮮人がしばられて道路にすわらせられていたという、大震災直後の話をうかがうことができました。その話をしてくださった時には、ご本人も気が付いていらっしゃらなかったのですが、病気が進みまして1年もたたないうちに亡くなりました。この地域で初めてで、遺言のように話されたわけです。

その時から、私も生徒たちも同じような思いで、これはもっと明らかにしなければと、取り組んではまいりましたが、随分時間がかかりましたし、その生徒たちは60歳ちかくなつたでしょうね。そういう事をぼそぼそとやっている中で「追悼調査実行委員会」ができて、平形さんたち、もっと大勢の市民のみなさん、研究熱心な人たちとの交流があつてずっと調査が広がってきたわけです。遺体を改葬し慰霊祭をするということがこの地域でできるようになりました。韓国のみなさんからのお志(慰霊の鐘、普化鐘楼)もあつたわけで、私たちとしては、だいぶ進んだ運動になったと思っております。みなさんがこうやってお出でいただけることも含めてです。

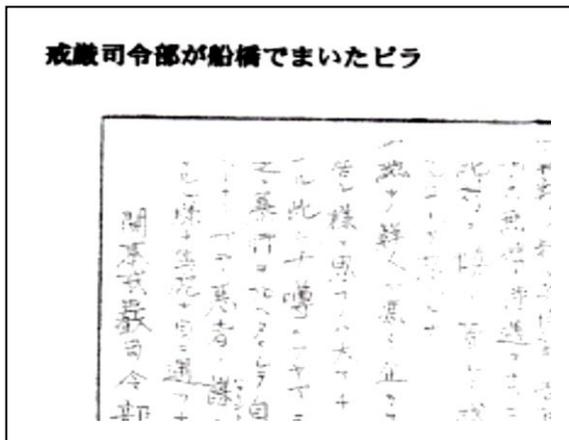
問題の性質上、この地域の人の気持ちさまざままでございまして、なかなか記録に、特に映像の記録に残しておくことができなかつたことがたくさんございます。

これをどのように残していくか、広めていくかはわたくしの大きな課題なのですが、私、中学生と一



大竹米子さん 平形千恵子さん

緒にこの問題の本質を彼らなりに討議するときが一番決め手になったのは、という意味で、資料を一つ持ってまいりました。



注意

1. 朝鮮人に対し、その性質の善悪に拘らず、無法の待遇をなすことは、絶対に慎しめ。等しく我が同胞なることを忘れるな。
2. 総ての鮮人が悪い企てをして居る様に思うのは、大まちがいである。こんな噂にあやまれてこれに暴行を加えたりして、自ら罪人となり、一二の悪者の謀（はかりごと）にのせられるようなばかな目にあうな。

関東戒厳司令

戒厳司令部が9月6日に出したものののですが「注意」というもので、船橋市の旧家からみつかったものです。戒厳司令部の言っていることを、どう解釈すべきか、これが生徒たちの討議の焦点となりまして、文化祭で発表いたしました。後でバスの中でもお話いただければと思います。

高津廠舎（捕虜収容所）に習志野収容所が開設され朝鮮人も中国人も収容されていたのですが、捕虜収容所がどの様なものなのか想像がつかないと思います。

日露戦争時のロシア人捕虜、第1次世界大戦の時につくられていたドイツ人俘虜収容所に関東大震災のとき、朝鮮人や中国人が、何千人も入れられていたということです。ここでは私の話はこれくらいにします。



## (1) 韓国から贈られた「慰霊の鐘」と「普化鐘楼」(1985年) 平形

これを御覧になって韓国の鐘楼だとすぐお分りになると思います。鐘楼の建設経過についてお話し致します。

大竹さんの話から始まって、みんなで調査するとわかったことがたくさん出てきて 1983年に『いわれなく殺された人々』（青木書店）という本を出しました。

収容所から朝鮮人を「取りに来い」という命令があって、村の人たちが取りに行き、当時観音寺の境内にイチョウの木があったのですが、そこに15人しばって一晩おいています。今は八千代市といますが、そのころは大和田町でした。大和田町の集落に3人ずつ分けて配るんですね。それが9月7日なのです。「注意」のビラが飛行機でまかれたのは6日です。船橋で6日にやるな、というビラが配られているのです。ところがこの地域の人は知らない。7日に取りに行っても3人ずつ分けるというのは殺せということなのですね。

ここは高津という所ですが、7日に3人引き受けて、さらに8日に2人、9日に1人追加がありまして6人ですね。これから行く共有地「なぎの原」のすみで殺して穴に埋めてしまっています。



『いわれなく殺された人々』の本を出したあと、みなさんも来て下さるようになって韓国のキムウィギョン（金義卿）さんという戯曲家が関東大震災時の朝鮮人の虐殺を戯曲に書くためにいらっしやいました。「なぎの原」に小さな塔婆が立っていました。というのは、実は、地域の人が供養していたんですね。うす暗い森の中で地域の二人の方が供養しておられました。こういう塔婆を見られてさみしい供養の仕方だと考え、韓国に帰って慰霊の鐘を寄贈する会を立ち上げられました。韓国の有名なお寺の鐘を小さく造ったそうです。これと同時に鐘楼をすべて韓国の材料を使って作って船で横浜

に運び、観音寺境内に組み立てました。1985年のことです。

この鐘楼が組み立てられる様子は、オチュンゴン（呉充功）監督の『払い下げられた朝鮮人』（1986年）に記録が残りましたので、私たちは大変嬉しく思っています。みなさんもお存じと思いますが、韓国の鐘は低く吊って下に共鳴板があります。10年後くらいに色を塗り直しに来て下さっています。最近キムウィギョンさんが亡くなられました。改めて感謝申し上げます。

## （2）「なぎの原」での犠牲者の遺骨を発掘（1998年9月24日）

### 遺骨発掘時の話（なぎの原で） 大竹

さきほど平形さんも触れていましたけれども、この近所は皆さん比較的新しい居住者でして、ここを発掘するという時に外側に幕を張りました。村の古くからの集落の人たちは雑誌とか新聞に興味本位に報道されることがいやだ、限られた人間だけで掘り出すのを見て、こう改葬するのも専門の業者さんをお願いしました。大変理解のある業者さんでして、私たちの『いわれなく殺された人々』の読み合わせをして、このような遺骨なのだと理解して仕事にあたられました。

私たちもこの集落の付近でそのようなことがあったと分かっておりましたが、はじめは「なぎの原」がどこなのかさっぱりわかりませんでした。それは聞いてもなかなか話してはくれなかったのです。ここが「なぎの原」だと分かったのは、この近くの小学校の先生が、良い実践をしていたから保護者やお祖母さんに信頼されていたのでしょね。旧家でここが「なぎの原」だという事を聞いてくれたのです。それを聞きまして、本当に驚いたんですね。来なかったわけではないのです。この辺に松の木がたくさんありまして、松の木の下だということで、何回も来ているのです。もつとがさやぶでした。そこに塔婆が4、5本たっていて、そこに「関東大震災外国人犠牲者」「第三国人犠牲者」とかいろいろ言い方は違うのですが、塔婆が立っていました。その塔婆の字を書かれたのは観音寺の今の住職の二代前の方からだったそうです。私たち本当に驚いたわけですが、そこは山番とか言われたこの集落の人ではない日本人のお墓が奥にありました。あとから入ってきた人たち、差別を受けてきた人たちだったでしょう。そういうことが分かって

からは、1983年からここで慰霊祭をすることになりました。

この樹なのです。後で写真をお見せするのですが、ずいぶん大きなコブシの樹です。こんなふうには春に花が咲きます。真っ白な花が輝くように咲いていました。コブシの樹は、早く育つようです。この土地のみなさんの話では、ここに目印のため植えたのではないかということです。それでは、掘った時のお話を簡単にいたします。

会の方から退職したばかりの私が出ました。『いわれなく…』を出版した青木書店の編集長島田さん、会の代表の吉川さん、途中で帰られました母親サークルの西沢さん。



フィールドワーク風景

わたくしたちは村の特別委員会の方たちとかたい約束をしていました。何を約束したかという、決して記録を取らないということです。もちろん写真も撮らない。メモもとらない。それで、わたくしと青木書店の島田さんの役目はずうっと目に焼き付けておくことが任務でした。吉川さんは外から人が入ってこないように見張るのを自分の任務としていました。島田さんはその後厳しい病に罹られて、お話しすることができません。それで、これからお話しする掘った時の様子は私一人の受けた感じというか、記憶でしかないわけです。わたくしの記憶ですから絶対に正しいとは言い切れないのです。この点はご配慮いただきたいと思います。証言というのはそういうものなのです。

ただわたくし、自分が生きている間に一人でも多くの方に聞いていただきたいという気持ちがございます。

当日朝の8時ごろから、ユンボを使って土地の表面を削るわけですが、墓堀の専門家さんがこの土はそういう土だろう、粘りがあって70年の土にかえる直前の土だと言い出したのが、お昼直前だと思えます。驚いたことに、この土がそうだった場所は、この樹から1メートル離れたこの辺でした。あの辺に塔婆があったのだからもっと向こうかと思っていました。お坊さんたちはここを通過していたのですが、実は通り道に遺体は埋められていたのです。そこを2メートルほど掘り込みました。

1メートル位盛り土だったんですね。私はいろいろな形で散らばって出てくると思っていたのですが、長方形の穴のこちら側から掘り出されるのをずっと見ていたのですが、頭がい骨、肋骨などは目の前にはありませんでした。大腿骨と脛とがありました。大腿骨は20センチかそのくらいの上下の間隔に積まれているように出てくる様子が見えます。出てきた骨は、業者さんが、その駐車場は畑でしたから、ビニールシートを敷いてそこに並べていきました。コブシの樹というのは下の方に行きますと太い根ではなくて、そこから髯のように細い糸の根がたくさん出るので、その根が遺体を包んでいるように根に囲まれて骨が出てきました。

実はわたくし、ずっと自分の記憶だけだと思っていたのですが、発掘作業が終わって全体が観音寺に引き上げたとき観音寺の片隅で自分の覚えていることをメモしたスケッチブックがつい最近出てきたのですよ。そしたらやっぱり今のように、樹から1メートルくらいの所と書いてあり

ました。

村の特別な冠婚葬祭を世話をする特別委員会の人たちは、本当にみなさん、こっちを向いていなかったです。みんな外の方を向いて、怖かったんでしょうね。どんな骨が出てくるか。ところがその委員長をやっていた江野沢隆之さん、碑の裏側に名前がありますが、市議員なのですが、その方が、ここは200軒たらずの村の人たちの共有地なので、全部のお家の承認を貰って歩いた人なんですけども、保守的な議員さんですけれども、そんな事関係がないですね。これは。その人が私の背中を後ろからたたいて「24年も5年もがんばった甲斐があったね」と言われたんですね。その人が市議会が午前中であって、午後になって帰ってきたんですけど、きれいな水を汲んできて、シートの上に並べてある骨を洗っておりました。わたしは大変打たれるものがありました。私は事実をまちがいがなく自分の目で見よう、確かめようと、それだけの思いで穴の中をずうっと見ていたんです。村の人は骨を洗って供養をしていたんですよね。その違いというか、よそ者の私との違いを思ったわけです。いろいろございますが、その骨は観音寺さんの前の和尚さんと吉川清さん、私どもの委員長、改葬をする会社の社長さんのお計らいで焼骨にしました。その骨を焼く時に民団の方、朝鮮総連の方、みなさんご遺族の代わりとして参加していただいた方々とみんなで話し合いをしたのです。その時に民団長寿会の方が一つ言いたいと言われて「ここであったことは全部事実だ。今日集まったあなたたちは二代目、三代目だろうから、家に帰って先祖の位牌に伝えてほしい。みんな気にしていったんだろうから、今日で全て終わったんだよ、安心して眠ってくれと、先祖に伝えてくれ。」といったんですよね。大変ありがたい言葉でした。

※遺骨の発掘が実現して、大きく育ったコブシの樹の根元から、遺骨が掘り起こされた。「日記」の記録通り6体だった。現在は、目印だった大きなコブシの樹は、途中で切られている。

1999年に観音寺境内に「関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊の碑」を建立。  
その後は、この碑前で毎年9月初旬に慰霊祭を続けている。

▼関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊の碑（1999年）



裏面

八千代市高津区特別委員会	委員長 江野沢隆之
高津区民一同	住職 関 光禪
高津山観音寺	
関東大震災朝鮮人犠牲者	
追悼・調査実行委員会	
委員 吉川 清	
施工 (株) 石友工業	

(記録 雁部)

# 第22回潮来交流会アンケートから

(完全版は報告書をご覧ください。)

## 今度の交流会の日程で一番印象に深かった行事は何ですか？

- どれも甲乙つけがたい、印象深いものばかりだったが、しいて一つ選ぶとすれば、フィールドワークで、語って下さった大竹さんの姿です。あの炎天下、高齢の華奢な体で、困難な聞き取り調査の体験をもの静かな口調で、一つ残らず語ってくださった、その気持ちがありがたかった。こういう人の取り組みで歴史の真実が埋もれずに残った、真実を明らかにすることが過ちを繰り返さない道につながると実感できました。
- フィールドワーク 直接聞く話、これはすごくよかった。関東大震災の初めて聞く話、聞く方も覚悟がいる。これからの自分の生き方も考えさせられた。
- 金明仙先生のお話。
- フィールドワークで、85歳の大竹先生と平形先生の粘り強い活躍と10代の高校生らの活動報告。
- 池田先生の授業報告。イヒョンド先生の発表（授業報告）と道徳教育という点で結びついて話が広がった点が良かった。また、障害者についても話が広がったのも、障害者という新たなテーマという点で興味深かった。
- 朝鮮学校と韓国学校が同じ場で各々のとりくみを発表したこと。  
成田空港の歴史を知る機会があったことが良かったです。
- 報告をめぐっての討論（3日PM～4日目AM）それぞれの報告者の内容が繋がっていた。
- 先生達がこの世に良いものを残そうと教育の使命感と仲よくしていくために必要な能力と心の知恵しほしが感じられました。内容は重かったです。
- 今日は本当に素敵で感動的な日ありがとうございます。沢山の先生達の未来への情熱が素晴らしいです。応援いたします。
- 授業報告にしか参加できなかったのですが、6本の報告、いずれも素晴らしかったです。「自分らしくある」ことをお互いに認められるような教育実践を行っていらっしやって、本当に素晴らしいと思いました。
- 二日目のフィールドワーク 大竹米子さんのお話は、心底ずしんと来ました。渡辺さんや呉監督がいつもより力を入れて話している、と言われましたが、その通りです。ありがとうございました。
- 全体会の話し合い。より深く日韓の教育事情の差を知ることができた。自由裁量度の大きい韓国の教員がうらやましいです。
- 関東大震災の朝鮮人虐殺の歴史的課題が、韓国、朝鮮学校、定時制高校と、立場の違いや、学年の違いを超えた実践によって、追求されたこと。
- 東京韓国学校生徒の交流報告のレベルの高さに感心しました。また、プレゼンテーションの仕方もとてもうまくすばらしかったです。どんどん他の高校生との交流を広げていく行動力もすばらしいです。
- 授業報告と討論 いつもながら充実した内容だった。朝鮮学校の金先生のお話は、在日生徒を地域で生きる存在として育てようとする姿勢に共感できた。クオン先生と池田先生のお話は

- 教育の原点を確かめようとするもので、今後もじっくり考えていきたいテーマだった。
- フィールドワーク 平形・大竹先生の粘り強く真摯な姿勢に感銘を受けた。
  - 発表会の中では最初のイヒョン先生の発表が印象に残りました。いったい小1の子にどうやって関東大震災の朝鮮人虐殺の話をするのかと思ったのですが、アウトサイダーにどのような心理を持つか、どうそれを修正するか、という授業でした。波多野先生がおっしゃった通り、イ先生の言う「勇気」が何かわかりにくかった点はありませんでしたが、とてもよく考えた授業だと思いました。
  - フィールドワーク 大竹・平形両先生の案内を通して、政府が伏してきた事実を地域の中で明らかにしてこられたプロセス（市民運動としての）が心に沁みました。今、問われている国家責任、現在との類似性の指摘と警告をぜひ、多くの人が知らなければならないと思った。
  - フィールドワークで、思いがけず話していただくことになった大竹さんが語ったエピソードの数々と、大切なことを伝えたいと願う大竹さんの熱意に心が打たれました。民間人による朝鮮人虐殺という厳しい歴史を背負った人々が、その後どのように生きてきたのかを学ぶ中で、加害者にも「自ら加害者になった者」「無意識に加害者となった者」「加害者とさせられた者」があり、それぞれに加害者としての歴史の背負い方が違うことを学びました。
  - 1日目、2日目のフィールドワークに仕事の関係で参加できず残念でした。佐原は歴史的にも非常に興味深いところです。参加してみたかったです。交流会後、善元さん、チェヘジンさん、池田さんとともに佐原の街を歩きました。3日目午前より参加しました。どの報告も興味深かく、議論が深まるものばかりでした。いつもながらですが、交流会だけでは、語りつくすことができないのが惜しいです。
  - やはり自分自身が討論会のことについて発表したのが一番心に残っています。教授の方や先生方と肩をそろえて、自分の思っていることを発言できたことは自分自身の中でもいいターニングポイントになったと思います。
  - フィールドワークです。特に習志野・八千代の地で長く虐殺された朝鮮人について調べてこられた大竹さんのお話にはとても心を揺さぶられました。
  - 最後の日を除きすべての日程に参加でき色々と学べる3日でした。その中で最も印象的に残った行事はやはりフィールドワークでした。犠牲者の慰霊碑を訪ね被害者がどんなに苦しんだのかを感じることができたと思います。韓国と日本の両国では関東大震災で起きた朝鮮人虐殺に関してほとんど教育されないのには完全新しい概念でした。多くの犠牲者がいた、だからこそより多くの人たちに広める必要があるとしみじみと感じました。
  - やはりフィールドワークが一番印象的でした。前回フィールドワークに参加できませんでしたのでいっぱい期待していました。しかし、期待した以上に、私には貴重な経験になりました。
  - 先に最後の辺にいった豊かな町が一番印象に残りました。そんな綺麗な町は初めて知りました。友達と来る機会がまたあればもう一回訪ねたいと思います。

## 今度の交流会で一番楽しかったことは何ですか？

- 韓国の友人とたくさん話ができただけでなく、お互いの国の教育の話だけでなく、とりとめもない話の数々も、自分の中では財産となります。

- 出会いです。1年ぶり、数年ぶりの人もいましたが、それだけに嬉しいことでした。
- 歌と踊りですね。後は韓国の先生とお話しできたこと。韓国でも専任と講師の格差がある、という話は身につまされました。もっと語学や語彙を学ばないと、と反省しました。
- 韓国側参加者との交流 自由時間が少なく個々の会員とゆっくり話せなかったのが残念です。
- 久しぶりに韓国の先生方にお会いでき、うれしく思います。イヒョンドさんの躍動的な授業展開を楽しく見ることができました。
- 韓国の会員のみなさん、千葉朝鮮初中級学校の先生方にお会いできたこと。
- とにかく韓国の先生方に久しぶりにお会いできたこと。
- 今回は夜の部（部屋での語らい）に参加できなかったことが、残念でしたが、いろいろな人と今年も出会えたことが一番の喜びでした。
- 2年ぶりにみなさんにお会いできたことが何より嬉しかったです。わたしは、事情があつてなかなか、普段参加ができないのですが、そんな私のことを日韓の先生方は覚えていてくださつてとても嬉しく感じております。韓国の先生方は、たとえ日本語が話せなくても「ひさしぶりだね、元気だった？」というような言葉をわたしにかけてくださつて、感動しました。わたしもどんなに韓国語が上手く話せなくても、様々な手段を使って話せるようにしたい、そして、交流を深められるよう今後も参加の方策を練っていきたくと、強く思いました。
- イヒョンド先生の授業報告がおもしろい教え方だったが、あの重たい内容の理解まではまだまだ先かなと思います。
- レセプション 韓国の方々との交流
- すべてが全体として楽しかったです！！
- 高校生の発表 底抜けに明るくとても 좋았어요
- 会員のみなさんとの久々の再会、交流。
- 懐かしい先生方とお会いできたことと新しい方々に会えたこと
- レセプション（カラオケ アンド メロン）
- みんな楽しかった。やっぱり交流会かな・・・それに夜の日韓の国をこえた交流
- レセプションが楽しかったのは言うまでもありませんが、千葉の朝鮮学校の二人の先生も加わつて、全員輪になり最後に「朝露」を歌った時は感動でした。二人の先生がレセプションとそのあとの二次会まで参加してくれたことは二人にとっても、私たちにとってもより深い交流になったと思います。
- 一番楽しかったというより、ずっと楽しかったです。今回の交流会を通して、日韓の歴史や授業のあり方だけでなく、お互いが日韓以前の関係にあるんだと感ぜました。一緒に歌を歌ったりプレゼントを交換したり・・・そういった関係が交流会を楽しくしたのではないかと思います。
- レセプションですね。毎回のことですが、日韓両国の会員たちが歌い、踊る・・・！
- 一番楽しかったと思ったことは毎晩日程が終わった後の飲み会(?)でした。韓国と日本の先生方々が自由に意見交換をしながら熱い討論を横で聴いているだけでも興味が湧きました。また、学校で授業を受けながらわからなかった点を聞いてみたり、韓国の先生方に在日韓国人学生としての意見を言うことができた私にとって忘れられない時間でした。
- 一番楽しかったのはレセプションでした。韓国と日本側の先生方が楽しく歌って踊る姿が印象に残りました。最後まで楽しい時間を過ごせました。
- 今回の交流会で一番楽しかったのはやっぱり最終日にあったレセプションでした。

## 今度の交流会に対するご感想をお書き下さい。

○どれをとっても充実した内容でした。すばらしいフィールドワーク、映画と監督の講演、授業実践報告、研究報告、高校生の交流報告、もっと時間があれば子細に議論できたのに、とちょっと残念でもあります。時間的にこれだけの内容をこなすのは無理がある。厳選して議論を尽くす、日程を工夫する（初日か最終日に研究報告を一つ入れる等）が必要だろう。



○大変な準備でよく心が？さらされた、いきとどいた大会だったと思います。おつかれさまでした。

○いつも自分らしさを忘れずにいろいろな場面で活躍なさっている先生方々に心を打たれました。尚且つ、今後の新しいプラン（生徒らとの授業）を立てることができたこと、先生方のお蔭です。本当にありがとうございます！

○若者の参加が増えるようにしたい。

○フィールドワーク 地域の方との信頼関係を地道に築いて貴重な話しを聞かせて下さったお二方に感謝です。

○活発な議論が展開され、両国の交流としてとても意義深いものだった。

○今後も今日のような会が、前向きに希望して続きましょう。

○教育改革の部門に所属しているのですが、日々、難しい状況に直面することが多く、先生方のご発表を聞いて

たくさんの示唆を得ました。本当にありがたい機会だったと思います。また、個人的には、普段職場である程度大人になった人との付き合いが多いため、子どもを持ってからは、小さい子にどうやって、平和とか差別しない気持ちとかを教えていけるだろう、と漠然と不安になることがありました（息子なので、無意識のうちに日本で女性の地位が低いことをシカタガナイとおもったりしないか、なども）。しかし、先生方が、真摯に子どもたちに向き合っている姿をみて、ヒントをもらったような、そんな気がしております。

○いつもそうですが、始まるまでの準備は、長く、始まるとあっという間に過ぎてしまうのが交流会です。特に今回は特に裏方的な仕事に終始したので、交流会までにいろいろな人に出会い、いろいろなことを学びました。交流会が終わって、「交流会ロス」なんてこと考えるのかな、と思っていましたが、翌日からさっそく仕事の山ですよ。（現実にはキビシイ）

私の意見より皆さんから潮来交流会の感想の方が聞きたいですね。

みなさん茨城までおこしいただきありがとうございました。わたしや吉川先生がいつも感じている、花の都よりの近さ、あるいは遠さをお感じいただけましたか、機会があればまたゆっくりお越し下さい。今回回れなかった名所をご案内いたしますわよ。

○今回もほとんど役立たずですみませんでした。ほぼ、毎週、土日にも授業が詰まっているのでほとんど定例会に顔を出すことは不可能になってしまいました。すみません。

とはいえ、交流会に来ると1年に1回、故郷にもどってきたような感じです。我々はもう一つの家族のようなものですね。来年お会いできるまで、皆さんどうかお元気で過ごしてください！

○フィールドワークで大竹米子さん、平形千恵子さんの真実を追究し、広く知らせようという姿

- に感銘を受けた。85歳、75歳という高齢は問題でないと叱咤激励された感がある。
- 日本、韓国、韓国学校、朝鮮学校の教師たちが同じ場にあつまることができたことは、この時代においてとても画期的なことだと思います。今のところ、このことを大きな声で言えませんが、韓国大統領選挙後、今とは違った風が吹けば、少しは言えるかもしれません。
  - 宿舎について、立地・サービス・設備とも大変よかった。お世話下さった吉川先生に感謝。日本側は少人数のスタッフでよく頑張ってお下さった。安藤さん・吉川さん・佐藤さん…ありがとうございます！
  - 韓国の若い方たちがとても真剣に考えて、質問も活発で感心しました。日本側ももっと若い方が参加してほしいものです。またヘイトスピーチについては日頃から何故なのか疑問だったのですが、ヘイトスピーチをする人たちの正体が少し分かった気がしました。不愉快な存在ですが、そういう人たちや同調する傾向の人たちをどう論破していくかが課題ではないでしょうか。
  - 自発的な意志と行動を結集した日韓の交流・授業とフィールドワークを中心とした3泊4日。日本側はツメが甘いまま当日を迎えた。日頃の会員同士の話し合いが不十分だと感じた。それぞれの仕事のやりくりもありシカタガナイと思いながらも。
  - キムミョンソン先生の授業、高校生の交流の報告、特別報告一つひとつの内容がとてもよかったです。話し合うべきテーマが多くあり、もう一つテーマを絞って討論できるとよかったと思います。それぞれの場で課題を整理して、来年に引き継ぎたいです。
  - 今回は一部参加なので全体的な感想は述べられませんが、発表者をはじめ全体討論に参加なされた方々の真摯な姿勢に毎回心を打たれる思いです。成果が教育現場で十分シェアされ、人の優しい社会、隣人との共生を構築する一助となることを願ってやみません。
  - 最終日に韓国側から出た感想で、日本側が長期的課題になっている、若い会員の参加が少ないことがやはり気になります。まだまだ私は若い会員と思っておりますが、私の次に来る人がいません。日本の学校現場を如実にあらわしています。若い教員が忙しさでがんじがらめになり、自己啓発に乗り出さない（乗り出せない）現状です。なんとかしましょう。
  - とてもいい経験でした。いろいろな先生方とお話することができて、自分の価値観にも変化が出来たと思います。これからもどんどん参加していきたいなと思いました。学生としても、人間としても、多くのことを教わることが出来ました。潮来交流会を通して、自分も考え直す機会をもらったのかなとも思いました。
  - 韓国学校の高校生たちの参加があり、日韓の高校生たちの交流の報告がありました。高校生たちのこのような交流がこれからも続くことを期待します。
  - 初めての参加となる交流会はとても意味のある時間でした。暑い中で先生方々と一緒に慰霊碑を訪ねたり、真実な話を聞ける時間でした。特に、多くの先生の授業を受けながら多くの事を習うことができました。
  - 国史の国政化問題に関する授業は身近に感じました。また私たちが高校生としてどんな活動をしたかに関する報告をできたことがとても良い経験となり意味がありました。
  - 今回の交流会で発表させてもらったのですが、不足な点が色々ありまして反省しました。先生たちが15分発表するのにどれくらいの時間をかけて準備しているのか、よく分かるようになった交流会でした。
  - 素晴らしい先生たちとお会いできすごく良かったです。いっぱい話したり先生から見る観点も習い良い機会となりました。

## 次期の交流会に望む点は何ですか？

- 来年は韓国忠清北道の洪城とのこと。環境教育に関する授業報告が楽しみです。  
それはさておき、また交流会に参加できるようにしていきます。来年で私は日韓合同授業研究会にかかわって20年になります。第3回のソウル大会からです。参加は今年で7回目です。  
さらに努力していきます。今回は皆さんどうもありがとうございました。
- 次回は洪城で、環境の問題がテーマになると聞いています。原発の課題はますます大きなものになっています。意味のある大会になると期待しています。
- 何故、1923年の震災時に朝鮮人虐殺を引き起こしたのか？三・一独立運動への日本の為政者の恐れ（うぬぼれ・世間知らずがその下にある）が背景にあった。「脱亜論」にみられるイビツな世界認識の結果として1945年大日本帝国は敗北した。冷戦体制が始まると、帝国アメリカに抱えられ敗北を事実として向き合わずにきた。為政者とマスコミに同調した民衆も又、戦前に続いて、自らの無知と加害責任を自覚しないうえに。今回のフィールドワークで学んだことは、事実を背を向ける為政者に抗して、事実を掘り起こし、自覚への過程を示した民衆と市民の運動の姿、日韓交流の姿であったと思う。  
日韓を包む世界の近代・現代史の流れのなかで地球環境の問題点、解決のヒントをみつきたい。
- 授業報告、その討議が十分できることを期待したい。
- 最近では日本でも、教員志望の学生さんは早くから社会活動されているので、彼らが接しやすいように場所・空間の設定や広報活動の工夫が必要だと思います。（SNSやFBの活用、定例会の場所・時間設定を若い世代に合わせるなど）
- 来年は洪城というところで、環境がテーマで、なにかアドベンチャー？な感じですが楽しみにしています。（ジュラシック・パークみたいな所？の訳ないよね。でも電気がないところって、日本では北アルプスの山の上くらいしか、想像できないですが、よく考えると東日本震災の時の計画停電みたいな感じかも）
- 次回は韓国ですよ。参加できるかな…。できるといいな…。チョハンミ先生と素敵なお連れ合いからは「1年に1度は会いたいです」というメッセージをいただいたため、韓国にいきたいという気持ちになっています。
- やはり、お互いに向き合い歴史の理解と心の譲り合い、親善交流こそが未来の楽しみです。
- フィールドワークについて、余裕もてる時間配分ができるとよいですが。  
また暑さは、しかたないですね…。
- 教員の労働問題（‘授業とはずれますが’ …）年々中高の教員の負担が社会の問題になっています。とくに長時間無償労働で支えられている部活動で消耗し、授業研究はおろか準備する時間もないという深刻な現実が日本にあります。若い先生は物理的に来られないと思います。
- 発表者と通訳者の事前調整の充実化。
- 全体会でも指摘されたが、日本側は新しい会員の獲得と彼らが参加しやすい環境づくりを積極的に進める必要があるだろう。
- 次回はすべて参加したいです。望むことはそれだけです。
- やはりフィールドワークが一番印象的でした。期待した以上に、私には貴重な経験になりました。次回の交流会では、一緒に討論した日本の高校生たちも参加したいです。
- 次期の交流会では、もっと僕と同年ぐらいの学生たちもより広く参加してもらいたいです。

## 追加の感想

○皆さん！本当に苦労様でした。ありがとうございます！

○個人的には、話しが下手なので、自己紹介的なことを書いたカードみたいなものを準備しておけばよかったかな？と思いました。

韓国学校と朝鮮学校の人が、同じ場で、それぞれの取り組みを発表し交流できたのは、画期的なことであり、今後もこの交流が続くことをささやかに願っています。

韓国学校の入学希望者が増えて、敷地が手狭になっている、学校をもう一つ建てたい、というささやかな願いすら、多くの都民は受け入れられないのでしょうか。私の勤める特別支援学校は、急激な生徒増で教材倉庫のような狭い教室に生徒と教員が詰め込まれている教室がたくさんあります。手狭な環境がどれだけ子どもや学校労働者に負担になるか、毎日身をもって実感させられています。普通学級にいる「出来ない子」をあぶりだして追い出し、障害児学校をどんどん新しく作って子どもたちの分離別学に余念がない東京都が、韓国学校の教育環境をあたりまえに整えることにすら、朝鮮学校への教育環境を整える補助金拠出すら渋る、これ一体何なんだ？

○議論の場では、私がもう教育現場を持っていないし、自分が発言しても前向きな意見が言えない（参議院選挙、都知事選の結果、ドイツなど世界でおきたテロ、難民排斥論調の高まりによって落ち込んで）と思い、発言を控えました。また私自身、この場は民間交流の場だから、と韓国側からできるだけたくさんの方が発言されることが大切だと思い、聞く側に甘んじていましたが、内容的に深めることはやはり、大切なことではなかったかと反省しています。議論を深めることでほんとうの信頼関係が築きあげられるものだからです。

話し合いで、もの足りなく感じた点をいくつか述べます。

①関東大震災の朝鮮人虐殺問題を韓国側参加者と討論できたか。

証言活動を続けて来られた大竹さんたちや、遠藤先生のヘイトスピーチをテーマにした授業の報告で論点が提起されていたにもかかわらず、韓日の議論が深まったと感じることはできませんでした。特に韓国側の感想が多く出なかったのは残念でした。ヘイトは日本だけの問題ではないし、韓国軍のベトナムでの虐殺事件があると思いますが。

②「天下晴れての人殺しができるぞ」と喜んで虐殺に加担する人がいたことを知りショックでした。ここまで日本人の朝鮮人に対する憎しみが募っていった歴史的経過は明らかにされたか。朝鮮に対する植民者意識、侵略思想と、三一運動などの抗日独立運動への恐怖が憎しみを作りだした、と漠然と思っていましたが、もっとさかのぼって明治維新の思想、もっと前の秀吉の朝鮮出兵まで見ていくべきだという意見もあります。今日の日本社会の急速なナショナリズム回帰に空恐ろしいものを感じています。草の根の国家主義がひたひたと押し寄せている感じです。戦争に突き進む時は、あっという間のことだと誰かが言っています。排



外主義、日本中心主義の思想は、関東大震災での朝鮮人虐殺の背景を分析することで、明らかにされるのではないかと思います。同時に韓国人の「ナショナリズム」を問うことにもなったかもしれません（韓国ではナショナリズムは良いことですから。）議論を深めるべきだったと思います。

- ③今日まで脈々と引き継がれている朝鮮人蔑視をどう克服していくか。今日なすべき課題は何でしょうか。
- ④在日朝鮮人の歴史は、これまでも韓国社会で理解されてこなかったと感じます。イジョンスクさんは在日問題に関心を持って分厚い本を読み、勉強されているのを知っています。しかし多くの方にとっては、「自分の問題」として考えることは難しかったようです。「昔の話、他人事」とまでは申しませんが、かなり温度差があると感じてしまいました。どういう温度差かというと、関東大震災での朝鮮人虐殺の歴史を知っている在日コリアンは、ほとんどの者が「次に大地震が起きたら、自分も虐殺されるかもしれない」、という恐怖心を持っていると思います。私自身も阪神淡路大地震の時、恐怖の一部に頭によぎったことは、デマが流れないだろうか、ということでした。親戚も住んでいましたし、地震の被害とともにデマによる排斥が心配でした。福島地震、原発事故の時もそうでした。私の友人はすぐに外国人が排斥にあつていないか、調査に入りました。趙パギさんの歌の中で、在日が共通して抱いているデマの流布→虐殺への恐怖について、歌詞になって歌われているのが印象的です。いまだ尚、在日の共通する恐怖が払拭されないでいるのはなぜでしょうか。（被災して亡くなった方の50人に1人が在日コリアンであった、阪神大震災では、デマはなかったということです。かえって情報弱者としての外国人支援が叫ばれました。後にボランティア元年と名つけられるほど、在日外国人住民への支援活動が生み出されました。しかし、熊本地震では「井戸に毒」という関東大震災の大虐殺をあえてフラッシュバックさせる悪質なデマが公人によって流されたにもかかわらず、告発もされず、小さくしか取り上げられていないのはなぜでしょうか。）むしろ今日では、在日朝鮮人に対するマイナスイメージを作ろうと、安倍政権自らが、意識的にメッセージを送り、「デマ」がばらまかれているとも言えるのではないのでしょうか。朝鮮学校の教育は偏向しており、だから補助金をカットするのは当然だ、というものです。「在日朝鮮人は反日だから、日本人が困っている時に、混乱に乗じて悪さを働く」と見られていることに息苦しさを感ずります。意識操作がひどくなっている、と感じるのは私だけでしょうか。北朝鮮がミサイルを発射した（韓国がサードを配備したので）のは事実ですが、今にも日本に戦争を仕掛けているかのような錯覚を植え付けています。自動迎撃ミサイル発射装置の常時施行が敷かれ、北朝鮮への敵視による朝鮮学校の児童生徒へのバッシングがひどくなります。在日朝鮮人は、福祉の分配を横取りして貧しい日本人の生活を圧迫しているかのようなイメージ操作で「文句があるなら国に帰れ」という排外意識が高まります。私の父はもし生きていたら年金がもらえない世代です。特権どころか、老いる権利すらなかったというのに。こうしたヘイトスピーチが影響力を持ってしまっています。
- 共に市民として生きていこうとする構図から、日本人对在日朝鮮人、という対立の構図に向わされています。その敵対意識はいつでも、他の外国人に向けられていくでしょう。せっかく多文化の共生、多民族社会へ進んで行こうとしていたのに、政府、マスコミ、レイシズム団体は共同して、日本の全体の空気を外国人対日本人という対立の枠組みに落とし籠め



潮来笠

ようとしています。今回は民間交流という意味では成果は大きかったと思いますが、議論の深まりがなかったと思います。歴史を前に進めるため、苦難の状況を切り開く原動力となるためには、真剣に忌憚なく議論しあって、学ぶことこそ財産となるのではないのでしょうか。私も前向きに議論に加わっていきたいと思います。

(追伸；実は私にも教育現場はありました。3年前、桜井先生、そのほかの日本語教師の在韓日本人に呼びかけて設立した「韓国 継承日本語教育研究会」は1年半前から民間の多文化家庭支援事業で、日韓の国際結婚カップルの子どもたちに日本語や日本文化を教える活動もしています。私も一部ですが授業に携わっています)

## 短信

○集会案内です。

「関東大震災朝鮮人虐殺の国家責任を隠した国家の責任」 講演 山田昭次  
10月1日(土) 3時~4時30分 在日本韓国YMCA 3階 302 参加費 500円  
主催 関東大震災朝鮮人虐殺の国家責任を問う会

○皇甫 康子さんが本を出版されました。「家族写真をめぐる私たちの歴史：在日朝鮮人・被差別部落・アイヌ・沖縄・外国人女性」お茶の水書房。10月頃東京で出版記念会を計画しているそうです。

○大森直樹さんは「資料集 市民と自治体による放射能測定と学校給食 チェルノブイリ30年とフクシマ5年小金井市民の記録」東京学芸大学教育実践研究支援センター編 明石出版を監修されました。

○祐天寺で毎年行われている朝鮮人戦争犠牲者追悼式に出席してきました。「浮島丸事件」の犠牲者・BC級「戦犯」刑死者など朝鮮人軍人・軍属の遺骨が今も祐天寺の納骨堂に眠っています。その遺骨を遺族のもとに返そうとする運動は、今回交流会で出会った、関東大震災の犠牲者の存在を明らかにしようと活動を続ける人たちの姿とつながりました。一人の存在を大切に考えることの重さを考えました。

○来年の交流会は、韓国の洪城(ホンソン)という環境問題に自治体ごと取り組んでいるところで行います。日程は2017年8月4日(金)から7日(月)を予定しています。ぜひ、今から予定に入れてください。(F)

ウリ 105号 2016年9月11日

日韓合同授業研究会

代表 藤田

事務局連絡先

E-mail [larrabee1991@yahoo.co.jp](mailto:larrabee1991@yahoo.co.jp)

会費納入先

振替口座が新しくなっています。ご確認の上、会費3,000円の振り込みをお願いします。

郵便振替口座番号

00120-9-265186

加入者名 佐藤